新・新潟市教育ビジョン策定推進本部　第５回本部会議　会議概要

【開催概要】

日　時　令和６年 12 月 26 日（木）午後１時 00 分から午後２時 30 分

会　場　ふるまち庁舎４階　401 会議室（教育会議室１）

出席者　本部長・副本部長・本部員　ほか

【会議概要】

■１　開会

本部長あいさつ（夏目教育長）

○　前回の策定推進本部は５月の開催で、半年以上を経て本日が第５回目の会議となる。

○　その間、有識者会議を４回開催し、様々な立場から、それぞれの知見に基づいた意見をいただき、それらの意見を参考にしながら教育ビジョンを策定してきたところである。

○　並行してプロジェクトチーム会議やパブリックコメントの実施、学校園長会へのヒアリングを経て、施策指標案や実施計画の策定に取り組んできたところであり、いよいよその完成に向けて仕上げていくという段階に入っている。

○　今日の内容は基本構想・基本計画の最終案、そして、これまでプロジェクトチーム会議で進めてきた実施計画、事業についての検討・協議であるので、このビジョンに掲げている２つのコンセプト、「生まれてから一生涯を通じて幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育」「誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育」へ導くためのコンパスと成り得ているかということを市長部局と教育委員会事務局の皆様から多面的多角的な視点からご意見をいただきたい。

○　昨今の報道でもあるように、教育に関する施策の方向性が大きく変わっていく時期になる。皆様からもこうした過程が重要であるということを改めて共有しながら、今日の会議を進めていただきたいと思う。

■２　説明・協議

（１）説明

○　基本構想・基本計画（最終案）について

―資料に基づき、事務局から説明―

（こども政策課長）
現在、こども未来部で、こども計画を策定している。教育委員会の皆様にも多大なご協力をいただいていることに改めて御礼申し上げる。こども計画の中でも教育ビジョンと同じ歩調で取り組んでいるが、今の教育ビジョン最終案の 43 ページ、施策指標の真ん中「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合」というところで、以前の有識者会議の中で、「どんな理由があっても」というふうになると、理由があればいいのではないか、と誤解が生まれるという発言をされた方がいると思う。ここは「どんな理由があっても」ということで、修正を加えないということでよろしいか。こども計画の中でも、そういう記述がある部分があったので、統一させていただきたいと思い、確認させていただいた。

（教育総務課長）
おっしゃる通り、有識者の方からそのようなご意見があり、我々としても指標の表現を変えられないかということを検討したところだが、これまでの指標でデータが積み上がっている中で指標の表現を変えるとなると、現状値が変わってくる可能性がある。そのため、この指標に関しては変えないと判断させていただいた。

（こども政策課長）
承知した。

（学校支援課長）
色々なデータが出ている中で、データの年度がそれぞれ異なっている。例えば 22 ページの全国体力・運動能力、運動習慣等調査についてのデータは令和５年度となっているが、すでに令和６年度も出ている。このようなデータは新しい年度に差し替えていくのか。

（教育総務課長）
全体のデータの載せ方もあり、例えば、他のところで令和５年度のデータが数多くあった場合、一部分だけ年度を令和６年度に変えることがいいのかどうか、ということもある。今後、その辺りを総合的に見て判断したいと思う。

（学校支援課長）
おっしゃる通りである。20 ページの学力の変遷などをみると、そこに加えるコメントがそれにふさわしいのかどうか、ということもあるので、この時点で、ということで区切るのであれ

ば、令和５年度のデータを基にしながらでもよいかと思う。統一されればよいかと思う。

（教育総務課長）
正直なところ 20 ページの学力のところは、データ的に古いと言えば古いのだが、これに関しては総合計画に載っているデータを引用している部分もあり、変えるのはどうかなという部分もある。今後そういったところも加味していきたいと思っている。
私の方から１点確認させていただきたい。45 ページにある指標で「新潟市は国際的なまちだと思う市民の割合」について。実は一昨日の教育委員会定例会の中で、委員から、現状値が 18.2 パーセントで、目標値が 50 パーセントとなっている。高く望むのはいいことだと思うが、何か根拠があってのものなのか、という発言があった。この場で細かいことを聞いて申し訳ないのだが、後でも結構なので教えていただければと思う。

（国際課長）
数値は外国人の方にアンケートをとったものと、日本人 4,000 人を抽出してアンケートをとったものを基にここで指標にしている。外国人の方だけだと 35 パーセントの方が国際的だと思ってくれている。日本人は 15 パーセントくらいだったかと思う。目標として掲げるからには、という強い意志をもって少し背伸びをした数値になっている。

（教育総務課長）
外国人の方の現状値が 35 パーセント、だから目標値を 50 パーセントにしたということで。今の説明を聞くとわかるが、ここの表記だけだとなかなかそこがわからない、というところがある。ここだけではなく、例えば新規で現状値が無いところに関して、目標値が 100 パーセントであれば、頑張るのだな、というところがあるが、そこの目標値を 80 パーセントとか 70 パーセントのような、今、現状値がないのだけれども、こういった数値においた時に、おそらく、これだけを見ただけの方には分かりにくいのだと思う。我々事務局の中でも悩ましいところがあり、それを含めて皆様方と今後、ご相談させていただければと思う。

（政策調整課長）
今の総合計画冊子の中の一番最後に成果指標の一覧をまとめている。その中で、「目標の設定の考え方」というところに、この考え方で設定したという記載をしているので、このような考えがあるのであれば、同じように巻末か何かにまとめて記載されるのもよいかと思う。

（教育総務課長）

我々も、実施計画を作る時に、総合計画の最後の方にあるような一覧を巻末に付けて、その中に指標の考え方を記載したいと思っていた。ただ、そこでの考え方は、「指標の考え方」にどまっていたところもあったので、「なぜこの数値になったのか」ということについても雰囲気としてわかるような工夫をしたいと思う。

（生涯学習センター所長）

先ほどの説明の中で、教育委員会定例会で指摘があった 32 ページの黄色い部分。もとは「生涯学習」という記載だったところが、「社会教育」に修正になった箇所かと思う。以前、生涯学習センター内でも検討していた中で、「生涯学習」という言葉はかなり広義であって、社会教育、家庭教育、学校教育と並ぶのは、違和感があるという話をしていた。ただ、教育総務課からは、そこの文言を直すと全体がだいぶ変わってくるため、なかなか修正できないという話をいただいていた。今回 32 ページがそういった形で修正されると、他にもそういう記載が結構ある。例えば 27 ページ、緑の四角囲いの中の●の２行目、「家庭教育や学校教育、社会教育」と「生涯学習活動」が並んでいるが、この並びについても少し違和感がある。そういう視点でいくと、このページの成果と課題についても、一段落目が「生涯学習においては」なのだけれども、２段落目になると「家庭教育」に変わってくるので、全体的に規模間の違うものが組み合わされていて、どうなのだろうと思う。どこまで手を入れるのか、難しいと思うが、教育委員からも指摘があったということなので、私からも改めてお伝えさせていただいた。

（教育総務課長）

実は 32 ページの「社会教育においては」というのは、今話があったように 27 ページの視点２の２行目のところになる。「社会教育、生涯学習活動で」というところを当初は引用していた。今言っていただいたように、成果と課題というところで、「生涯学習においては」という部分など、どこに合わせるのかというところが難しいので、我々としては悩ましいところではあった。視点２のところについては、現行のビジョンをそのまま引用せざるを得ないので、修正が難しい。また、成果と課題の表現と 32 ページについてもどうするかというところもある。正直、全体を整理しようとすると、なかなか難しい部分がある中で、事務局としては少なくとも 32 ページと 33 ページ。ここのページの関係性は、33 ページの下段の基本計画の第２段落、４つの基本方針、「家庭教育、学校教育、社会教育のどの分野においても」と表現されており、少なくとも 32 ページの分け方、考え方と 33 ページの考え方は、合わせた方がいいと考えた。これ以上は、あまり修正しないでおこうというのが正直あるが、ここについては、なおもまた

確認させていただければと思っている。

（丸山教育次長）
様々な意見の中で、例えば、文言の修正については、１つ修正をすると、それに伴って、整合性をとる必要が出てくると思うので、細かいところの修正は今後あるにせよ、大きなところの方向性、内容についてはよろしいか。基本構想や基本計画はこの後に説明する予定の実施計画にも繋がっていくため、基本構想・基本計画の方向性を承認していただいたということをもって、先の方に進めさせていただきたいと思っているが、皆さんよろしいか。

―異議なし―

○　実施計画（案）における事業について
―資料に基づき、事務局から説明―

（スポーツ振興課長）
実施計画は今後調整されると思うが、基本計画の各施策の●の数と事業計画の数が不整合なところがあったりする。あるいは、40 ページの基本施策４の●３つ目について、現状の事業一覧では３つ目に対応するような事業がないようである。その辺りについて、整合をはかっていただけるとありがたいと思う。

（教育総務課長）
今ご指摘があったように、例えば各施策において、●が３つあるのに、事業が３つないとかいうものについては、確認させていただきたいと思う。
補足ではないが、計画を作る以上、おおもとになるものがあり、それを土台に教育にかかる計画がある。そのおおもとというのは、当然ながら「総合計画」になる。「総合計画」における実施計画の中で記載している主な事業というのもある。ぴったり一致するわけではないと思うが、一致していないなら一致していないで、総合計画との違いというものも、まだ２年しか経っていない中で、社会状況が変わったと言い切れるのか、違う言い方なのか、総合計画と一致しない部分があった時にどういうふうにするかというのも、少し意識をしていく必要があるのので、その辺りも気にかけていただければと思う。

■３　連絡・その他

（教育委員会事務局）

今回、ご了承いただいた方向性を基に策定の作業を進めていきたいと思う。なお、基本構想・基本計画については、校正を複数回行う予定となっている。その際、皆様にも確認依頼をお願いする予定のため、引き続きご協力をお願いしたい。次回の策定推進本部の開催日時について、次回は１月 29 日水曜日で 13 時からとしていたが、昼すぐにだと、時間的になかなか難しいということから、14 時からの開催とするので、了解いただきたい。日時については、改めてメール等でご連絡を差し上げたいと思っている。内容については実施計画についてとなるので、ご承知おき願いたい。

■４　閉会

副本部長あいさつ（山本教育次長）

○　今回、市長部局の皆様、教育委員会事務局の皆様から忌憚のない意見をいただいた。先ほど丸山教育次長からも話があった通り、基本構想・基本計画については、ある程度この形で承認いただいたものと思っている。

○　実施計画に関しては、今回初めてお示ししたというものになるため、まだ、足りない部分というものが多々あろうかと思う。皆様には更なるご協力をお願いしたい。

○　今回、基本構想、基本計画においては、新潟市の教育がめざす人間像を、「しなやかに世界と未来を創る人」としている。この人間像を目指して、その実現に向かって各施策を展開していく必要があるため、実施計画についても更にブラッシュアップをしていただきたい。

○　次回の策定推進本部が最後の予定とはなっている。非常に短期間で、また、新年度予算に向けて、いろいろと大変な時期の作業ということで、恐縮ではあるが、是非ご協力をお願いしたい。

以上